

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	三十週年記念寮歌 二等當選歌
Author(s)	辻, 恒彦
Citation	龍南, 176: 363-363
Issue date	1921-02-11
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/7755
Right	

一 等當選歌

一、二、兩 辻 恒 彦

一 夫れ花いかに香るとも

いづれ一時の眺なれ

求めて長し三十年の

二 龍田の南樂園に

集ぶ友垣繁ければ

自治の小琴の音呀て

三 行くや行かずや立迷ふ

流轉の波に我が友の

月將たいかに匂ふこも

されば盡きせぬ眞理とを

光榮の思ひ出湧き來るも

集ふ健兒がひたすらに

浮世の塵を外に見つ

若き三年を誇るなり。

狹霧を罩し廣野原

そのかみ歌を浮べけん

白川今もしらじらと

四 今改造潮のすごく

混沌の様争へず

默示を悟る吾が胸に

五 南溟の雲凝り成して

剛毅木訥さながらの

地軸を揺るをたけびに

六 夢より淡き星屑の

消に去り行けば三十の

いざや歌はん祝歌を

眞闇の中を走るかな

四海の岸を洗へども

さあれ蒼穹白日の

強き自覺の根ざし行く。

空を蔽ふかかの噴煙

姿尊き大阿蘇の

共鳴り響け吾が調べ。

紫匂ふ東雲に

記念の日こそ立返れ

躍る血汐に伴奏せつゝ。